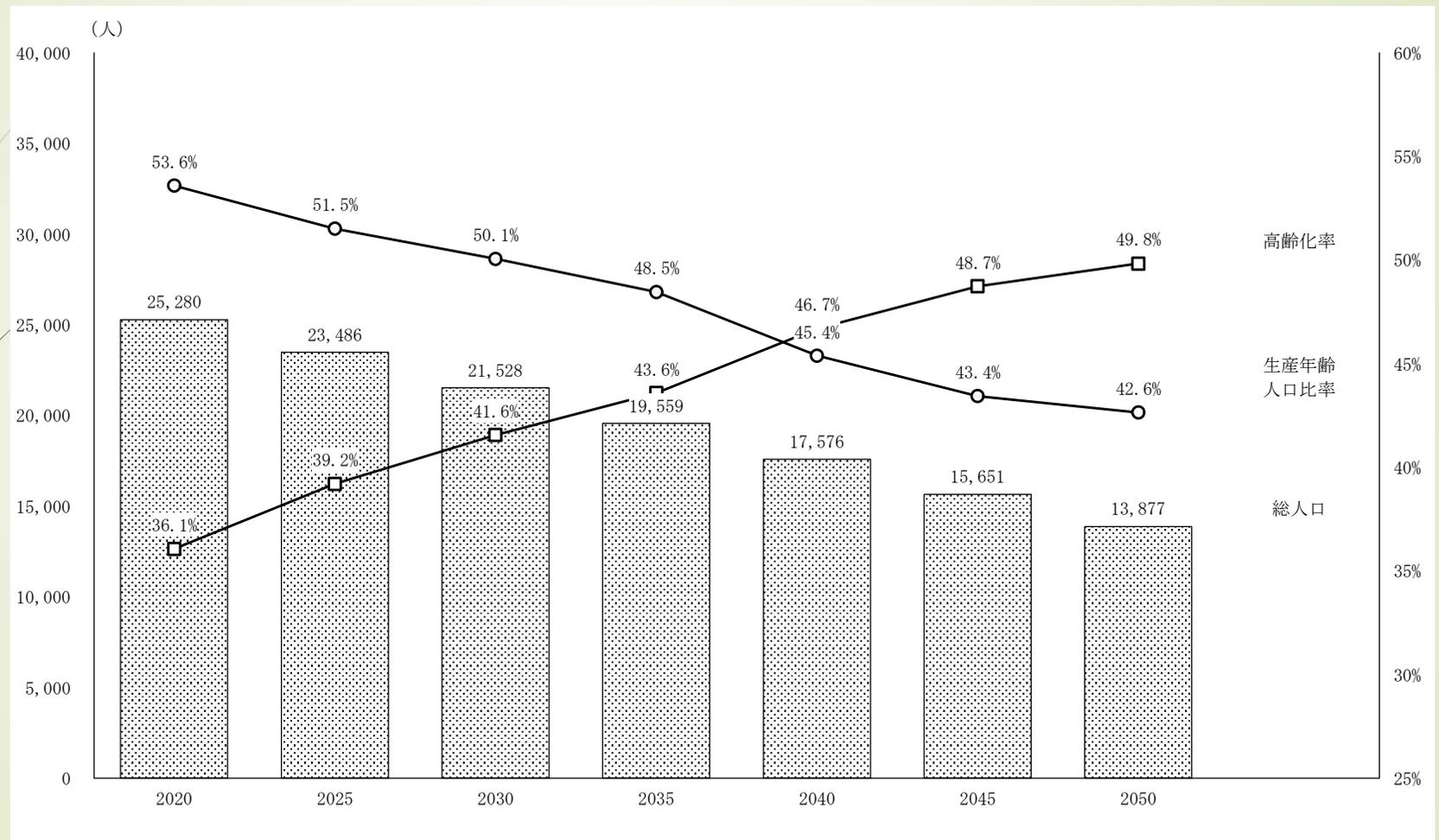


市立保育園における 保育力強化に向けた 今後の在り方について

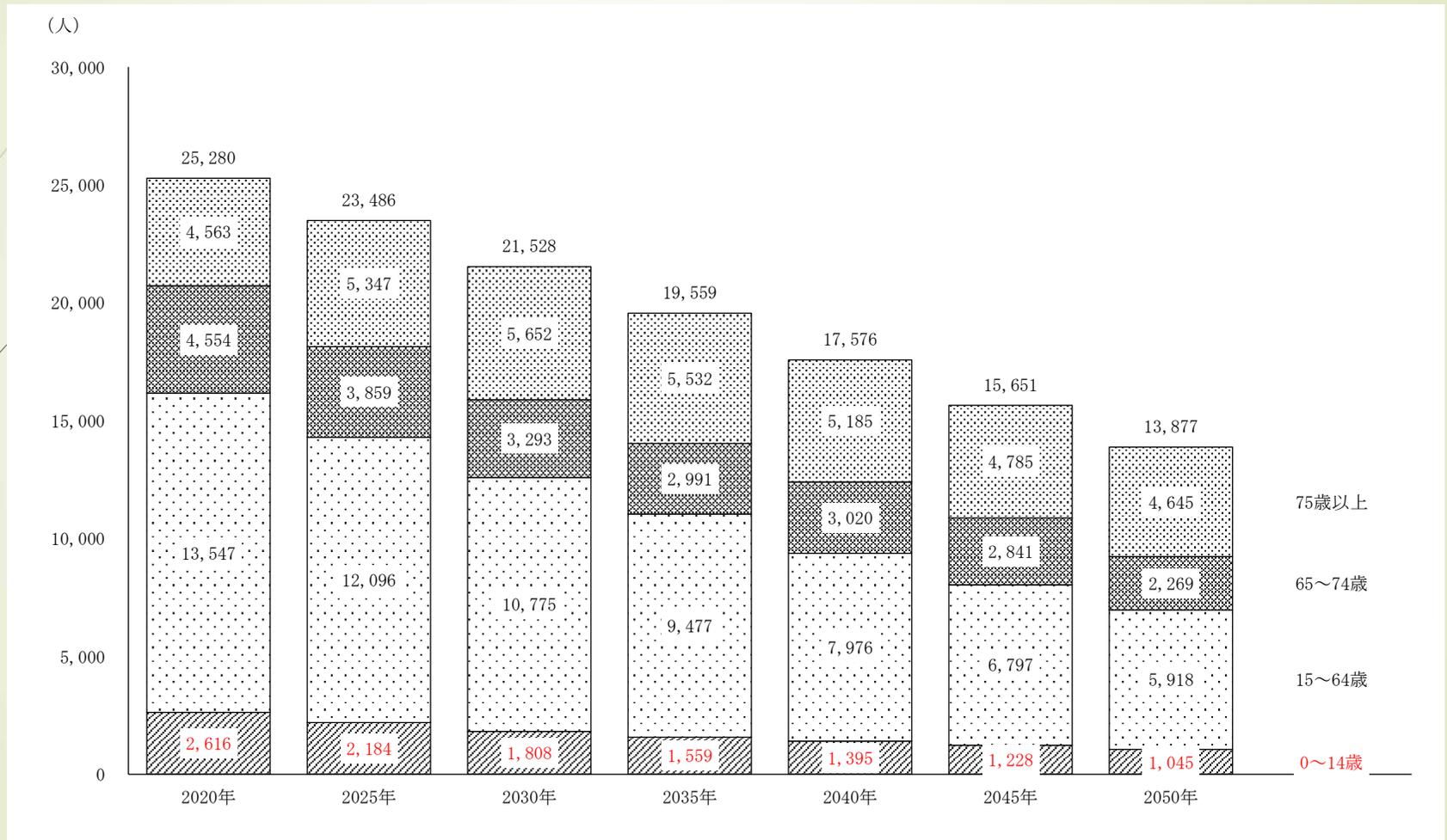
1

山縣市子育て支援課

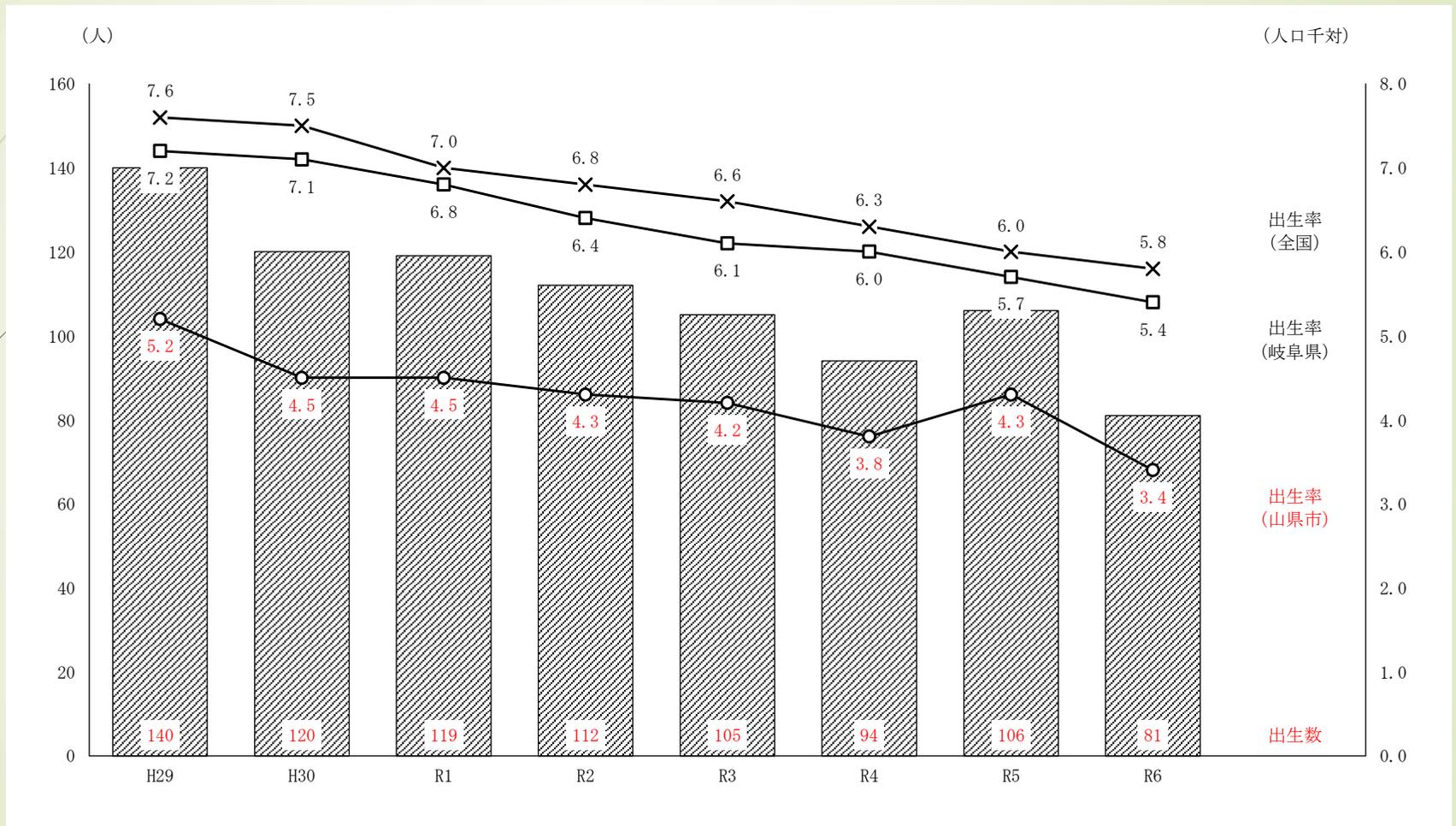
将来推計人口 (出典：市総合計画)



年齢別の将来推計人口 (出典：市総合計画)



出生数の推移 (出典：岐阜県人口動態統計)



0歳 - 14歳年齢別人口の現状 (出典：住民基本台帳(令和7年3月31日現在))

地区別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳
高富地区	24	44	40	37	48	38	54	52	52	50	49	55	51	60	56
富岡地区	27	31	33	29	37	39	47	38	40	43	61	55	50	55	55
梅原地区	4	4	4	2	3	11	8	4	6	8	8	10	14	8	12
桜尾地区	7	2	4	5	8	6	1	8	7	5	13	14	10	15	11
大桑地区	0	2	0	3	6	3	4	5	3	4	9	8	5	9	8
小計(高富地域)	62	83	81	76	102	97	114	107	108	110	140	142	130	147	142
北伊自良地区	1	2	2	4	1	6	5	2	5	3	6	3	5	3	6
南伊自良地区	9	9	3	12	7	5	11	10	13	16	11	14	21	17	14
小計(伊自良地域)	10	11	5	16	8	11	16	12	18	19	17	17	26	20	20
北山地区	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
葛原地区	0	4	3	2	4	1	2	2	0	3	1	2	0	2	0
谷合地区	0	0	0	1	0	1	1	0	2	2	0	3	1	0	0
北武芸地区	1	2	2	0	2	2	3	1	1	3	4	3	5	4	6
乾地区	0	1	1	1	0	2	2	1	2	4	4	3	1	6	5
富波地区	1	3	5	4	3	5	3	5	6	5	6	7	6	7	6
西武芸地区	11	6	5	13	7	12	14	10	18	5	18	19	15	16	20
小計(美山地域)	13	16	16	21	16	23	25	19	30	22	33	38	28	35	37
合計	85	110	102	113	126	131	155	138	156	151	190	197	184	202	199

市立保育園一覧 (令和7年4月現在)

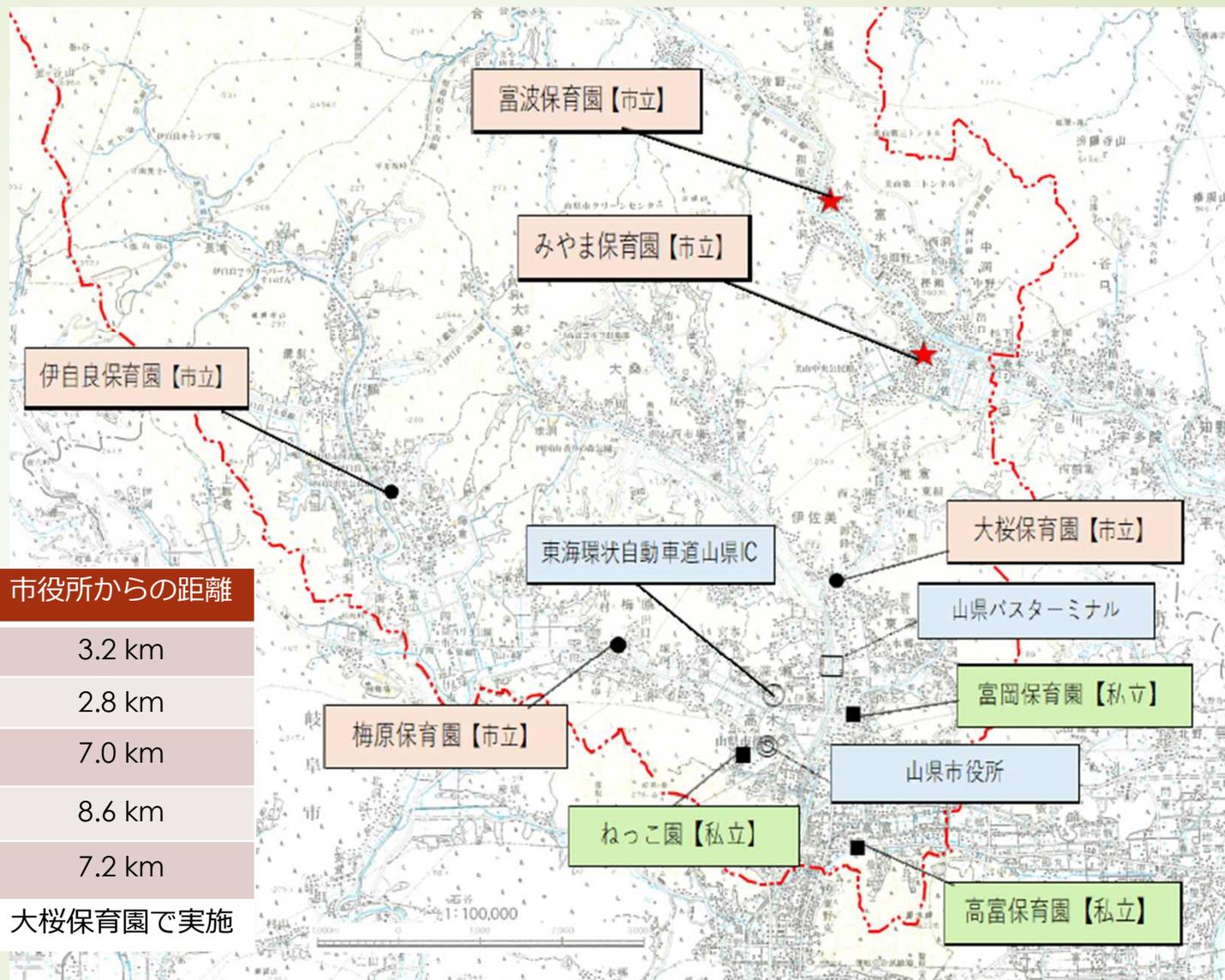
保育園名	所在地	敷地面積 (m^2)	建物構造	階数	建物延床 面積 (m^2)	耐震化の 状況	建築年 (西暦)	建物経過 年数 (年)
梅原保育園	梅原1537番地1	1834.3	鉄筋コンクリート	2	704.6	耐震基準有	1981	44
大桜保育園	伊佐美327番地2	937.0	鉄筋コンクリート	2	715.4	耐震基準有	1983	42
伊自良保育園	大門912番地12	1572.0	鉄筋コンクリート	1	644.8	耐震基準有	1975	50
富波保育園	富永460番地3	1403.0	鉄筋コンクリート	1	381.7	耐震基準有	1980	45
みやま保育園	岩佐213番地1	2768.5	鉄筋コンクリート	2	860.5	耐震基準有	1983	42

位置図

(令和7年4月現在)

	市役所からの距離
梅原保育園	3.2 km
大桜保育園	2.8 km
伊自良保育園	7.0 km
富波保育園	8.6 km
みやま保育園	7.2 km

* 土曜日保育は、大桜保育園で実施



教育・保育給付認定率 (令和7年4月1日現在)

年齢	人口 (人)	教育・保育給付 認定者数 (人)	認定率 (%)
5歳	131	84	64.1%
4歳	126	78	61.9%
3歳	113	82	72.6%
2歳	102	77	75.5%
1歳	110	72	65.5%
0歳	85	5	5.9%

(はなぞの北幼稚園、市外施設を除く)

市立保育園の現状

▶ 保育士確保の難しさ

- ・ 正規職員：31名 臨時職員：13名で保育を実施 ← 未満児保育や加配に追加対応できない現状
- ・ 新規で正規職員を採用できない ← 保育学生の減少、近隣市町や民間との学生の取り合い等
- ・ 臨時保育職員の確保が難しい ← 公立保育園が通勤しやすい市南部から離れている等

▶ 職員の高齢化

- ・ 保育士の高齢化 ← 配置44人のうち、60歳以上：8名（特に70歳以上：2名）
- ・ 給食調理員の高齢化 ← 配置10人のうち、60歳以上：8名（特に70歳以上：2名）

▶ 小規模園による保育の限界

- ・ 子ども総数が減少していく現在でも ← 5園に保育士が分散することで保育力も分散され、
高い3歳未満児保育の需要 市全体で見ると保育量総量が減少

▶ 施設の老朽化

- ・ 築50年を経過した保育園もある ← 大規模改修が喫緊の課題

保育力強化に向けた市立保育園の方針

**小規模園を
 中規模園に
 統合し、
 総保育量の
 増加を図る**

概念図 (イメージ)

(参考)

配置基準

- 4・5歳児 25人：1保育士
- 3歳児 15人：1保育士
- 1・2歳児 6人：1保育士
- 0歳児 3人：1保育士

梅原保育園	年齢児	定員	園児	基準	実配置
5歳児	10	9		1	2
4歳児	10	2			
3歳児	10	2	1	1	1
2歳児	6	5		2	1
1歳児	6	6			1
0歳児	6	0	2	2	2
計	48	24	6	7	

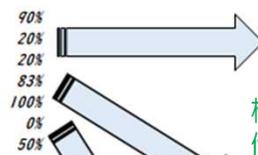
大桜保育園	年齢児	定員	園児	基準	実配置
5歳児	10	6		1	1
4歳児	10	6			1
3歳児	10	4	1	1	1
2歳児	6	1		2	2
1歳児	6	5			1
0歳児	6	6	2	2	1
計	48	22	6	7	

伊自良保育園	年齢児	定員	園児	基準	実配置
5歳児	12	9		1	1
4歳児	12	8			1
3歳児	12	12	1	2	2
2歳児	9	5		3	2
1歳児	9	5			1
0歳児	6	6	2	2	1
計	60	39	7	8	

みやま保育園	年齢児	定員	園児	基準	実配置
5歳児	20	17		2	2
4歳児	15	8			1
3歳児	12	12	1	1	1
2歳児	9	9		3	2
1歳児	9	6			1
0歳児	6	2	2	2	2
計	71	54	8	9	

富波保育園	年齢児	定員	園児	基準	実配置
5歳児	9	3			1
4歳児	9	5		1	
3歳児	9	4	1	1	1
2歳児	3	3			2
1歳児	3	3		1	
0歳児	3		1	1	1
計	36	18	4	5	

合計	263	157	31	36	
----	-----	-----	----	----	--



梅原保育園の保育量を大桜保育園、伊自良保育園で主に補完する。

大桜保育園	年齢児	定員	園児	基準	配置
5歳児	12			1	1
4歳児	12				1
3歳児	12		1	1	1
2歳児	9			3	2
1歳児	9				2
0歳児	9		3	3	3
計	63	0	8	10	

伊自良保育園	年齢児	定員	園児	基準	配置
5歳児	20			1	1
4歳児	20				1
3歳児	20		2	2	2
2歳児	12			4	2
1歳児	12				2
0歳児	9		3	3	3
計	93	0	11	11	

みやま保育園	年齢児	定員	園児	基準	配置
5歳児	25			1	1
4歳児	25				1
3歳児	24		2	2	2
2歳児	12			4	2
1歳児	12				2
0歳児	9		3	3	3
計	107	0	11	11	

富波保育園の保育量をみやま保育園で主に補完する。

★職員配置基準上1名減、配置想定上4名剰余が見込めるため、保育士加配配置等に余裕が生じる。

合計	263	0	30	32	
----	-----	---	----	----	--

△1 △4

保育園の中規模園移行によるメリット・デメリット

▶ メリット

- ・ 園児数が増え年齢別クラスになることにより、それぞれの年齢にあった身体的・精神的な発達が期待できるとともに、集団生活により社会性の発達を期待できる
- ・ 中規模園移行により、基準配置上保育人員の余裕が見込まれる
 - 加配が必要な園児に対し、保育士を充てやすくなることが見込まれる
 - 需要が高い0歳から2歳児対象の未満児保育に、保育士を充てやすくなることが見込まれる
 - 保育士等の労働環境の改善が見込まれる
- ・ 保育園に集中的な大規模改修工事の実施ができる

▶ デメリット

- ・ 保育環境が変化することにより、園児への影響が考えられる
- ・ 園児送迎の移動距離や送迎時間の増加が見込まれる

会議での主な意見

- 子どもの減少や保育等の現状を考えると、5園存続は難しい。
- 働く親が増えているため、3才未満児保育の需要が非常に高くなっている。
安全安心な保育を実施していくためにも、3園にするのが適切である。
- 小学校入学前の教育に保育は大変重要であるため、保育の質の確保が必要である。
- 安全安心な保育のためには、保育士と給食調理員の人材確保が重要である。
- 働いている保育士も、自身の子育てや介護等をしながら仕事に当たっている。
3園統合により保育士数に余裕が生まれれば、保育士の心にもゆとりができ、
子どもに対し手厚い保育に繋がる。
- 幼児教育は集団で行うことが大切である。人数が増えることは良いことである。
- 廃園となる梅原保育園と富波保育園の関係者には、十分な説明が必要である。
- 3園になると、保育園と職場の送迎が変わる方がいることから、保護者等には
事前によく周知が必要である。

市民説明会での主な質問

- Q. 廃園する梅原保育園と富波保育園の園児は、希望の施設に転園できるか？
- A. 令和8年4月頃に転園希望調査を実施予定。調査結果を参考に市立保育園は定員を設定予定。私立園転園希望者については市で入園を出来る限り調整を予定。
- Q. どうして大桜保育園・伊自良保育園・みやま保育園に統廃合するのか？
- A. 市全体で見たとき、高富地域・伊自良地域・美山地域のそれぞれの地域に1施設残し保育所を運営していくことが、市民の高い保育需要に応じていくために求められる。
- Q. 保育園統廃合スケジュールが令和9年4月になった理由は？
- A. 保育の現状を考慮すると速やかな統廃合が求められるが、市民向けの周知が必要なことや、廃園する保育園園児の転園を円滑に実施するため、令和9年4月とした。
- Q. 小学校入学時の校区でない保育園に通園するのは、子どもに心配が残る。
- A. 市全体で保育需要に応じていくことが最優先であり、保育園に校区という考え方はない。幼稚園については保育園以上にエリアが広い保護者の教育・保育ニーズに応じている。